

2014 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	環境創造学部環境創造学科 Faculty of Social- Human Environmentology
評価基準 3	教員・教員組織 【自己評定 A】
点検・評価項目(1)	3-1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
評価の視点	教員に求める能力・資質等の明確化
	教員構成の明確化
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
点検・評価項目(2)	3-2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
評価の視点	編制方針に沿った教員組織の整備
	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備
点検・評価項目(3)	3-3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
評価の視点	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化
	規程等に従った適切な教員人事
点検・評価項目(4)	3-4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
評価の視点	教員の教育研究活動等の評価の実施
	教育活動・研究活動等の業績の公表状況
	ファカルティ・ディベロップメント (FD) の実施状況と有効性
点検・評価項目(5)	3-5 教員組織の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

【点検・評価項目ごとの現状説明】

3-1	学部として教員像および教員組織の編制方針は定められていない。
3-2	<p>・専門の視点から考えれば教育課程に相応しい教員組織を整備しているが、65歳以上教員の比率が26%を占めている。(60歳以上教員は31%)、5年の間に定年退職を迎える教員により、大幅な人事刷新を行う。(ちなみに50歳以上～60歳未満が31%、40歳以上50歳未満は26%、40歳未満10%となっている)。さらに女性教員比率は21%で、3年前と比べてやや改善されたが、外国人教員比率はゼロのままである。</p> <p>・2010年から2012年度まで、専任教員数(実験助手を除く)は18名から19名で推移し、教員一人当たりの学生数は、平均44.4名であった。2014年度は専任教員19名、学生数が707名で、一人あたりの学生数は37.2人になり、評価当時より数字は改善されている。非常勤講師は30名である。</p> <p>・授業科目と担当教員の適合性はカリキュラム改変時にカリキュラム編成委員会と教務委員会がシラバス等から検証している。</p>
3-3	<p>・学則のほかに環境創造学部内規を定め、新任教員採用、昇任人事を適正に行っている。</p> <p>新入人事は非常勤人事を含めて公募行っている、特に専任新入人事では、必要な場合、学部外の審査員を入れて公平性・客観性に配慮している。昇任については、2012年度より、内規の改正を行い、教授だけではなく全専任教員が投票権を持つことになった。</p>
3-4	定期的に教務委員会や教育研究ワークショップ等を開催(月1回程度)している。FD活動については、外部で効果のあった教育方法の導入等を検討している。新任教員研修会および教員の社会貢献・管理業務等に関する資質向上を図るための研修会は特に実施していないが、本学部は、継続的に社会貢献事業を主体的に行っている教員が多数を占めている。
3-5	教員組織については、教務委員会および、ワークショップで検証し適切に機能させるように努力している。

【効果が上がっている事項】

3-1	学业内規において、明文化されている。
3-2	女性教員比率は21%で、3年前と比べて倍増(人数からして2人⇒4人)。教員一人当たりの学生数も改善している。
3-3	2012年度以降も厳正な審査を行っており、2013年度3人の昇任昇格が行われた。その結果、2014年度からは教授11名、准教授5名、講師3名という構成比になっている。
3-4	<p>・FD活動の中で初年時教育とキャリア教育の重要性が認識され、新カリキュラム導入の際に生かされている。</p> <p>・教員の教育活動の評価は、「学生による授業評価」等を利用して行われ、教育研究ワークショップで検証している。</p> <p>・教員の研究実績を互いに知る目的で、学科事務室に教員の刊行した書籍や論文集などを閲覧できる本棚を設置した。</p>
3-5	学业内規の検証と改正を毎年行っており、権限、手続き等が、明文化され、その都度、組織の在り方が認識されてきた。

【改善すべき事項】

3-1	学部として求める教員像および教員組織の編成方針が具体的に定められておらず、今後制定する必要がある
3-2	

3-3	
3-4	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究業績については、大学の HP に「研究業績システム」により毎年更新され、公表されることになっているが、更新されていない教員が見られる。 ・学部でFD研究会を発足させ、FD 活動のより一層の推進をはかる
3-5	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

環境創造学部内規集、環境創造学部教務委員会議事録、大学の HP、学園の現況。

《指標データ》

大学基礎データ（表 2）全学の教員組織

データ集（表 2）専任教員 1 人当たりの学生数

（表 3）教員組織における女性教員比率・外国人教員比率

（表 4）専任教員の授業担当時間（平均）（学部のみ）

（表 5）教員組織における実務家教員の占める割合（専門職大学院に限定）

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	3-1 2015 年度までに学部として求める「教員像および教員組織の編成方針」をHP等で公表する。	HP 等	→					
	3-4 ・2015 年度より、学部紹介冊子での教員研究業績の公表 ・全教員の教育研究業績の更新のチェック、新たに付け加えられた業績のスタッフ閲覧	学部紹介冊子 大東文化大学教育研究業績書	→					
	3-4 FD研究会の継続的实施	FD研究会・講習会、次第・報告書	→					
14 年度 目標	3-1・教育研究ワークショップや教授会において学部として求める「教員像および教員組織の編成方針」について論議する	教授会議事録	→	S				
	3-4 全教員に教育研究業績の更新	大東文化大学教育研究業績書	→	A				
	3-4 学部にFD研究会を発足し、年間 2 回の予定で研究会・講習会を行う。	FD研究会・講習会、次第・報告書	→	B				